

行方市 100 人委員会「第 2 班」議事メモ

議論した基本目標	市民ニーズにあった公共交通を実現する
コーディネーター	熊井 成和
審議員	岡田 豊、 桑子 幹弘
説明担当者（自治体）	事業推進課
日時	2021 年 5 月 30 日（日） 15 時 05 分から 16 時 20 分
その他	参加者数 <u>会場 3 名</u> <u>オンライン： 5 名</u> 欠席者数 <u>13 名</u>

総括

コーディネーター総括

- 公共交通の周知について
参加した委員のほとんどが路線バスやデマンドバス、広域バスなど現状の公共交通の事を知らなかった。
利用しなくとも、市民として知ることが大事という意見が出た。
- 交通結節点について
「そこに行けば何かしらどこかに行けるぞ」という拠点として、交通結節点の設定の仕方が重要。現状、市は、行方地域医療センターを結節点としている。
また、結節点拠点化ということで、交通資源同士の役割分担が重要である。例えば、各地域の奥、道の狭いエリアでは、細かな運航を行い、結節点までのパイプ役として繋げ、そこから市外へ結ぶなどが考えられる。
- 利用の実態を把握した公共交通の再編
便利か不便かというところもあるが、ポイントは生活の実態をふまえて、どこに行きたいのかというところを、しっかり押さえた公共交通の再編が必要。
特に、市外の大きな病院やショッピングセンターに行きたいという意見や、医療・介護、銀行、学校をカバーするのは当然必要だが、交流であったり、飲食であったり、観光客を含めて、楽しむという前提の公共交通網の充実というところも「ありがたい姿」として持ってほしいと議論した。
- 利便性だけではなく、楽しみを付加価値に
路線バスにしてもデマンドにしても、充実しているわけではないので、乗り換えの時間や、用事を済ませた帰りの路線バス等の運行時間までの時間のつぶし方は、何かしら必要である。

結節点が、例えばショッピングセンターや、喫茶店が付随しているような所で、お茶を飲み、さらにコミュニティになるような、プラスの要素を加えたいと議論した。

協議の流れ（摘録）

コ) 二つ目の基本目標は「市民ニーズにあった公共交通を実現する」です。

最初にご担当の方から、シートのご説明をお願いいたします。

市) 事業推進課です。よろしくお願いいたします。

市路線バスとしましては、4路線運行しております、こちらにつきましては、今まで、スクールバスの空き時間帯を活用し、路線定期運行という運輸局の許可をいただき、実証実験をしておりました。令和2年でございますが、10月で期間が満了となったことから、ワゴン車両による本格運行に移行しました。こちらにつきましては狭い道などのでもそんな対応できるメリットがあります。

また他の公共交通として、デマンド型の乗り合いバス、乗り合いタクシーというものですが、こちらは平成30年度まで4車両による運行をしておりましたが、令和元年度からですね3車両にしまして、旧町単位3地区を受け持つタクシー事業者さんが運行しております。なめがた地域医療センターを核としまして、こちらで乗り継ぎをする改正を行いました。こちらにつきましては、今まで行方市を縦断するとなりますと、そのお客様を運行によってはですね、大きく時間がかかってしまうということなくすためにですね、先ほどの行方地域医療センターを中心としまして、乗り継ぎという方法により、お客様の負担を反映させております。

ありたい姿を実現していく実現するための主要な施策ということで、うち路線バスの再編でございますが、こちらは先ほどありましたスクールバスを活用している路線がありまして、北浦玉造ルート、玉造麻生ルートという2路線も試験運行中でございます。令和4年3月、今年度末になるのですが、試験運行期間が満了となります。このため本年度中に、新しい車両を導入し、同じようにワゴン車量を導入し、再編を図っていく考えであります。

こちらにつきましては、現在ワゴン車両を運行している路線がございますので、やはり市の中心であります行方地域医療センターを核といたしまして、こちらで乗り継ぎができるように、市全体をカバーできるように、運行計画を立てていることを考えております。

続きまして、広域圏および生活圏、アクセス強化でございますが、広域路線バスとしまして3路線ございます。

まず、霞ヶ浦広域バスですが、土浦市、かすみがうら市、行方市の3市連携バスでございます。こちらは玉造駅バス停からですね土浦駅までを結ぶ区間となっております。こちらはやはり高校生等通勤通学者への対応ということで、そちらの方の利用者が多く見受けられます。

続きまして鹿行北浦ラインと申しまして、潮来市と行方市の2市連携による広域バスとなっております。潮来バスターミナルからですね、高速バスの発着所でございますが、こちらから行方市内ですと、ファーマーズビレッジへ行く方面からですね、麻生庁舎を通過しまして、終点が白帆の湯までとなっている路線でございます。

こちらは、潮来バスターミナルからですね、行方市内の観光施設等をめぐるものでございまして、こういう形で利用をしていただきたいと考え、路線を計画しております。

続きまして神宮あやめ白帆ラインです。こちらは鹿嶋市、潮来市、行方市の3市の連携でございます。こちらは鹿嶋市の商店からですね、鹿島神宮駅など通りまして、また潮来市の高速のバスターミナルを通過し、麻生庁舎が終点となっている路線でございます。

続きまして利用しやすい公共交通環境の整備としまして、交通結節点としまして、先ほどの中心行方地域医療センターとですね、現在行方市の3庁舎、麻生庁舎、北浦庁舎、玉造庁舎の3庁舎を結ぶルートを計画しております。また公共交通と自転車の接続ということで、ご自宅からバス停までの移動手段としまして、自転車などを取り入れた整備を考えてございまして、それに合ったような計画を立てていきたいと考えております。

続きまして利用者目線に立ったわかりやすい情報提供としまして、現在でも行方市としましては、時刻表の改定などがございましたら、各戸配布をしまして、各ご家庭にですね、バスのチラシ、時刻表などをですね、お届けさせていただいております。

またこちらにあります行方エリアテレビですね、データ放送のところですね、こちらで各路線の時刻表を見られるようになっております。

続きまして、地域全体で支える公共交通の構築としまして、やはり公共交通ということで、こちらには持続可能な公共交通を実現するためということで、やはり市民の方に利用していただくの、持続可能ということでございますので、皆様のご意見をお聞きしながら、また将来の利用者である小学生を対象とした乗り方教室、やはり行方市ですね、小学生また小中学生となりますとやはりバスに乗るしか足がなく、乗り方教室やバス利用促進イベントやキャンペーンということで、各学校に訪問し、また、その市営路線バスやですね、民間のバス事業者の協力を得て、バスを学校に持ち込んで、乗り方教室を計画したいと考えております。

基本目標にある市民ニーズに合った公共交通ということで、こちら市民の方、皆様に合うかということ、例えば通勤使いたい。この時間帯がないと、夜も遅くないとというお話も伺うことはございます。ただ、全てが全て、叶えることはやはり予算上のこともございますし、運行事業者さんとの調整なども必要になってくるもので、全てというわけではないんですが基本的には住民の方のニーズに合った公共交通計画を構築していきたいと思っております。

- コ) 市民のニーズというのは、これはある程度ターゲットを絞ってというふうに考えてよろしいですか。
- 市) そうですね。
- コ) 地域の移動資源を総動員というお考えを持たれていますが、これは具体的にどういうことかご説明いただけますか。
- 市) 移動資源全てでございまして、公共交通も、一つなのですが、民間のタクシー会社さんでしたり、交通に関わる事業者さんと連携しながらですね、市民の方が使いやすいような制度、仕組みをですね、構築していくという考えでございまして。
- コ) 市民の皆様の協力という意味では、この総動員の中に入っていますか。
- 市) そちらもございまして。
- コ) わかりました。今のような、目指す姿を実現するために、市路線バスの再編、広域のアクセス強化。利用しやすい公共交通環境を、これは行方地域医療センターと三つの庁舎を拠点として整備する、また情報提供、地域全体で支える公共交通、特に小学生に乗り方教室を行っている、そういうふ体系になります。
- それでは審議員の方からご意見ご質問まずいただければと思います。
- 審) まずちょっと事実関係を担当課の方にお伺いしたいのですが、路線バス、あとデマンドバス、市外だと広域バスの利用者の層というか、どういう人が利用しているのかということと、あとは行き先特にデマンドバスについては、どういうところを希望していく人が多いのかということをお伺いできればと思います。
- 市) 通学利用者と通院の方、買い物等で利用の方ということで、そういった目的として利用していただいております。デマンドタクシーも同様の状況ではございます。また、潮来バスターミナルまで行って、バスターミナルからですね、高速バスを利用される方などもいらっしゃいます。
- 審) そうすると特に地方都市の路線バスだと高齢者の利用者が多い地域が多いと思うのですが、行方はそういうことはないですかね。
- 市) はい。
- 審) そうですか。
- 市) 路線バスを利用される方は、高齢者の方も一定程度いらっしゃいますが、人数で言いますと、やはり中学高校生が多いという状況ではございます。また、デマンドは、自宅までお迎えしてもらって、目的地まで行けるというメリットがございまして、どうしても高齢者の方はそちらをご利用されることが多いかと考えています。
- 審) はい、わかりましたありがとうございます。
- 審) 私も何か質問になってしまうのですが、先ほどのデマンドタクシーですね、これ1回でどのぐらいの費用がかかっているのか。公的な支援額です。
- 市) はい。1乗車当たりでいいのですかね。
- 審) 1乗車あたりですね。

- 市) ちょっと1乗車当たりの資料はないのですが、決算としましては年度2400万円程度でございます。昨年度の利用者数としましては9925人です。
- 審) あとですね、今の公共交通の現状を前提にされていると思うのですが、あと何年かのうちには、いわゆる自動運転というのが入ってくるんじゃないかなということで、特に過疎自治体とかは、より色めき立っていることもあるのですが、そういうことを入れたとしたら、どうなるかなどご検討は少しはされているのですか。それとも今のところは、まだまだ先のことなので待っているという感じなのでしょう。
- 市) そうですね。他市の事例でしたり、いろいろ情報などを、確認したり、聞いたりしているところではあるのですが、やはり自動運転と言いますと、例えば大通りでしたり、住宅街の道路でしたりとかが中心となると思うのですよ。行方市の場合は、山間地域で狭い道路もあり、やはり自動運転としましては難しいかもしれないと思うところです。行方市としましては、やはり大きい路線に現在路線バスを運行しているところではあるのですが、国道県道などですね、そちらで自動運転の車両を導入するとなってしまうとやはり交通渋滞とかですね、いろいろな支障が出てくることが多いので、やはり住宅近隣とかですねそういう密集しているようなところでの提案ですとか、問題ないような場所ですね、今後検討していくべきだとは思っています。
- コ) なるほど。つまり自動運転の場合は低速なので、普通に広い道を走らしても、他の車に比べて遅いから、交通渋滞とかそういう状況になってしまうのかなとは思いますが、それでは、市民の皆さんにお聞きしたいと思いますが、行方市内の公共交通、普段よく使われるという方、見える範囲で結構ですので、挙手していただいてよろしいですか。

【挙手者ゼロ】

- コ) ということは、皆さん自家用車で移動しており、今のところ不都合はないということなのでしょう。
- 委) そんな感じですね。
- コ) なるほど。皆さん不都合がない。そうすると感覚のご質問になりますが、行方市内の公共交通って便利だと思いますか？
- 委) 利用しないのでちょっとわかんない。
- 委) そうですね。今走っている路線をちょっとあまりわからない状況だったので、伺う中で、よく行方市内以外の医療機関に通われている方の話を聞くのですよ。例えば、鹿嶋市の小山記念病院ですとか、神栖市の白十字病院とか、そういった大型の医療施設にまではやっぱり届いていないのかなっていう感じがして、実際に使いたい方って意外とそういった自家用車としての足を持ってない高齢者の方とか、医療機関に行きたい方が、やはりメインになってくるのかなと思います。そういった広域になってしまうかもしれませんが、医療施設の利用状況から見た路線を考えるっていうのも必要かなって思いました。
- コ) 病院に行きにくいという事を実際に聞かれたという事ですか。

- 委) 白十字病院に行方市から行かれる方が、すごく大変だっというのを1回聞いたことがあったもので、そこを、結局どこに行きたいのかっていうのを前提とし連携体制を築いた方がいいのじゃないかなと思いました。
- コ) なるほど、なるほど。それは非常に見落としがちな視点かもしれないですね。ありがとうございます。
- 委) 私も利用したことがないので、便利かどうかというのがわからないのですが、印象としては、今の白十字病院さんとか小山記念病院さんとかの利用というのはちょっと不足しているのかなと思います。それ以外の部分に関しては、行方地域医療センターとかを想定し、交通手段がなかなか難しい高齢者層の利用したいところというのはある程度は網羅されてるのかなと思っておりました。
- コ) なるほど。
- 委) あとはその後の買い物ですよ。買い物ができる商業施設はきちっと立ち寄りルートに入っているのかなっていうのは、気になったのですが。湯浅病院のところはちょっと弱いかもしれないなというところですかね。
- コ) ○○さんはどうでしょう？多分普段は車で、ご自分で移動されているかもしれませんが、あえて聞きます。行方市の公共交通って、便利だと思われませんか。
- 委) いや、そもそもそんなに走らなくてもいいのかなという感じですね。おばあちゃんとかも結構言ったりしますけど、やっぱり乗せてってもらうことが多く、あまりバスとか乗らないですね。あと荷物が多くなったりすると、本当に運ぶのが大変で、一緒に行ったりしています。
- コ) 介護が必要な方でしたら、寝起きするのも大変ですからね。
- 委) でしょうね。
- コ) ありがとうございます。会場の参加者の方はいかがでしょうか？
- 委) やっぱりデマンドタクシーは家まで来てもらえるからありがたいけど、インターネットがあるので調べれば良いのですが、まずは利用の仕方がわからない、料金がいくら、時間はどのくらいかかるという事がわからない。そういう情報展開がされていないんだなというように思いました。何でもネットを見ないとわからない。ネットが見れる人と見れない人の双方に、こういうことがあるんだよと、まず知ってもらうことが大事じゃないかなと思います。
- バスも、家の前にバス停があるわけでもないのに、足が不自由じゃなければ行けませんが、もし足が不自由になったとしたら、バス停までいけるのかどうか心配だと思います。
- コ) ありがとうございます。市のご担当の方、今市民の皆さんのご意見を伺ったのですが、ご担当の方の現状の問題点と合致しており、対応策も検討されているので、そこは一致していたかなと思います。
- 市) 行方市以外の病院へのアクセスということで、ご意見がございましたが、こちらの病院の方ですね、広域路線バスでそれを目的として設計はされていない状況でござ

います。鹿嶋市と行方市との連携でやっている路線でございますので、今後こういうことをですね、各種協議の議題として挙げさせていただきまして、こういうご意見を賜りましたので、こちらの方で検討をしていきたいと考えております。

買い物という面であれば、行方地域医療センターを核としまして、ぐるぐる回る路線がございます。スーパーさんや銀行さんなどもございますので、そういうところでバス停を設置させていただいていますので、そういう形でご利用いただけると、よろしいかと考えております。

デマンドタクシーのご予約ですが、お電話をかけていただいて、オペレーターさんがいてですね、受付という形でですね、やっているもので、お電話でのお受付対応等、現在はなっているわけなんですけれど、近い将来としましては、例えばですね、現在ですとスマートフォンでの予約や、専用の端末をですね、無償でですね、対応させていただいて、お使いいただくなどですね、検討してまいりたいと考えております。

周知の方法としては、皆様へのお知らせということで、今後検討していく課題としまして挙げさせていただきます。市報への掲載、ホームページ掲載などですね、デマンドタクシー以外のですね、公共交通手段も含めまして、いろいろと今後たくさん見ていただけるようなものを掲載していきたいと考えております。

コ) ありがとうございます。審議員の皆さんいかがでしょうか？

審) こんなに利用していない人が多い。逆に言えば、車で持ってないと、住むのは難しい街なのかなと思ってしまいました。私一度も免許持ったことがないので。行方には住めないかなと思いながら、外部の人間から見たらやっぱり不便なのかなと思います。ただ、そのときに先ほど聞いたお試し居住だとか、空き家の話のときに、やっぱり公共交通機関との絡みで言うと、かなり大変な事情が出てきてしまうのかなと思います。もちろん引きこもってれば、大丈夫なんだと思いますが、やはり人間としては、例えばお買い物に行くのも大変だ、医療に行くのも大変だとなったときに少し二の足を踏んでしまうところはあるのかなあという気がしました。少なくとも先ほど意見のあった行き先、利用先別のニーズを測って、路線を探していくというのは、やはり何らかの形で、潜在的なニーズを作った事例というのも、実は他の地域ではあったりします。なので、特に買い物ですよね。買い物とかは、地区で公共交通を作って、なおかつ大規模集客施設でも何でもいいのですが、そういうところから、さらに太い民間の路線が走っているところに接続する流れを作り、補完的に動くというのがあっていいのかなという感じは個人的にしました。これは今までとはちょっと違う発想になるので、路線の作り方とかちょっと難しいのかもしれないのですが、そのあたりはうまく民間と合わせて考えていただければなあと思います。

あと外部の視点からすると、観光施設に行くのがすごい難しいと感じています。5年前にも来た時に、非常に大変だなと思ってましたが、外部から観光に訪れるという時に、車がないと苦しいとなると、新しい開拓は難しいのかなとか思うってしまうので、観光施設との絡みでも、少し考えていただければなあと思います。

審) 路線バスは皆さんが利用されていないということで、利用者は結構限定的なのかなと思いました。利用者負担が大きくないのであれば、その分皆さんの税金でまかなっているわけですが、そんなに税金を負担するのだったら、バスの本数を減らして、ちょっと近所の人のお買い物を手伝ったりしてもよいとかいう、住民側の意見を聞いてみたいところです。そもそもデマンドバスは1回いくらで利用できるんですか。

市) 1回中学生以上が500円となりました。

審) ワンコイン。

市) そうです。

審) 先ほど利用者が1万人ぐらいで、決算額が2400万円くらい。一人当たり2400円とすると、かなり利用料金から比べたら高いのですけれど、利用料金が高すぎたら誰も利用しなくなるので、そのあたりすごく難しいところではありますよね。

市) 昨年度ですが、運賃収入としましては260万円程度です。全ての人が500円というよりは減免される方もいらっしゃると思います。そういうことも含めて、昨年度は260万円程度です。

審) なるほど。高齢者は減免という感じですかね。

市) 年齢ではなく、障害者手帳をお持ちの方などですね。そういう形で減免制度も設けております。

審) その一方で足がないと生活が困難になるから、どうしても公共交通は必要だと思うのですが、現状利用者が少なく、参加者の人たちの意見を聞いていると、自助努力というか、家族なり、近所の人と協力をして、比較的自分たちで何とかやっているのかなという姿も思います。もうちょっと市民の中で、誰かをどこかに連れていくみたいなのを聞けるといいかなと思います。先ほどの議論でもありましたが、高齢化率、後期高齢化率、介護認定率ともにこれから行方市は上がっていく中で、今は大丈夫だけど将来は、交通弱者がもっと増えるだろうというような、そんな見込みは担当課として持ってらっしゃるんでしょうか。

市) それは感じます。

審) なるほど。それに対して、今後新しい総合戦略の中で対応できるようなものを作っていけるといいですね。

コ) ○○さん、公共交通って、便利だと思いますかという質問をさせていただいているのですが、○○さんから見ていかがですか？

委) 利用したことがないです。

コ) 移住をされてきたということですが、行方市に来て、周りを見て、困っている人が多いなあとか、あまり困ってないなとか、なんとなくの感触はお持ちですか。

委) 私自身、行方市のバスも電車もタクシーも、何があるのか知らないのですよ。利用したことないので。近所の人との助け合いがうまくできているかというのは、よくわからないんですけど、私は大きい車がなくて、ちょっと不便なところがあって、そう

いうときは近所の方に貸してもらったりとかっていうのがあるので、多分助け合ってるんだろうなとは思いますが。

コ) なるほど。

委) 私は、お隣さんとも仲がいいですし、いろんなものをいただいたりもしてますし、自分のところでも野菜を育てているのですけども、やはり他の地区の人からもらったりっていうのも多いので、そこは強みではあるなと思います。

コ) この交通弱者対策で、実際に住民の方にどういう役割を担っていただきたいかみたいなイメージを担当課としてお持ちですか。

市) そうですね。皆様に利用していただくということがそういう形で一応公共交通が持続されていくという考えではあるので、やはり利用していただくためには、先ほどのPR方法などですね、そういうものをどのように考えていくかということは思っておりますね。

コ) 利用してほしいということですが、そうですね、包括ケアシステムなんかを考えると、利用者というよりも、実際に移動手段に関わっていくというような、そういう場面も出てくるような気がするんですが、そのあたりを具体的に考えたら、地域の助け合いということで乗せてもらって、例えば実費相当分ということで100円だったり、そういう形で例えば健常の方が、病院とか買い物などに乗せていってあげるということも、地域協働としての事業としてできると思っています。

住民の地域交通に関わる役割として、審議員の方からありますか？

審) 昔は実証実験で実施している話が多い。やっぱり今どこの市町村でも悩まれているんだなと思います。ただ一方で今市民の方々から聞いて思ったのは、市民の方々同士の貸し借りっていうのが、もし何らかの形で成立しているのであれば、他の自治体でよく設置されている、いわゆる民間のシェア型の交通機関っていうのも、自治体や地域としてあり得るのかなと、例えばシェアカードとかいう形で、民間事業者でももちろんやってはいるのですけれど、それを市民同士の貸し借りでやる。またはいわゆる福祉ムーバーみたいなものもいいかと思います。そもそも福祉ムーバーの原点は、いわゆる市民が余った労力を、車を使って他人を乗せるという形ですよね。今日本の法律では結構難しいとは言われているのですけれど、実証実験としては、それなりにいくつかやっているから、過疎地ではこういうやり方の方がやっぱりやりやすいのかなというふうに聞いておりました。

コ) なるほど。ありがとうございます。

市民の皆さん、こんなこともあって欲しいとか、こんなところに行きたいとか、生活上こういうところに移動しないと成り立たないとか、そういう場所ってどこになりますか？車が使えなくなっても、ここには行かなきゃいけないねというのは病院と買い物とかが想定できますが、どうでしょう。

- 委) お酒が出る宴会があって、車で最初送ってもらって、広域バスがあるから、帰りは、それを利用して帰る友達がいました。そういう時にも利用できるのかなって思ってますけど。
- コ) なるほど。ありがとうございます。
- 委) 特に都会違いますから、どうしても車で移動しなきゃいけなくなりますからね。
- 委) やはり買い物と、銀行、郵便局などの施設っていうのが必須だと思います。ネットバンキングとかもできるのですけれど、窓口で手続きっていうのもあるので、自分がもし交通弱者になった場合には、必要なかなという気がします。
- 委) 先ほどの高齢者の方の利用について、大きな総合病院だけではなくて、整骨院みたいなところも結構な利用が多いのかなという印象がありますね。個人病院でも、そのルートの中にあるといいのかなと思いました。
- コ) ありがとうございます。最後に、公共交通でここに停まったらいいなという場所がありますか。
- 委) うちではお客さんが来るときに送迎をしているので、何か路線バスを使うっていう考え方が今の私には全くないです。お客さんが路線バスに乗ってきてくれると、すごく楽ですけど、結局それは不可能だなと思います。
- コ) わかりました。ありがとうございます。
- 委) 私はですね、飲食店に停まってくると買い物+飲食店で付加価値が出るかなと思いました。飲食店は行方市特にうちの玉造の方は、あまりないですけど、1人暮らしの時には、食べることでやっぱり一番困るのかなと思います。買い物も行けない、そうなったときに、ちょっとたまに飲食店に行って、楽しみの一つになりえたらいいなっていうのがいま話をしていて思いました。病院と学校は当たり前のように停留所になっていますけれど、プラスアルファちょっと楽しめる場所もいいなと思います。帰りのバスの時間まで、停留所で井戸端会議ができるように、停留所をリフォームすることもいいなと思いました。現状今、やっぱり通学と通院とかいうものがほとんどのような気がするのですけれど。
- コ) ちょっと行き先をお伺いする中で、病院と学校、これはもう必要不可欠で、当然カバーするものという認識の下で、ただもっと楽しむためとか、便利にするために充実させるという。必要な部分をカバーすること、もっと人生を充実させるために、公共交通を充実させるという、なんとなく二つの側面が見えてきました。でももっと飲食だとか交流だとか、楽しむことも当然大事だと思います。
- 公共交通機関なので、観光地でもないとするならば、どうしても住民本位の住民をまずメインに考えなければならないと思ってしまうのは当然ではあるのですけれど、住んでる人たちの楽しさもそうだし、先ほど申した、これから住みたいと思う人たちの何か、いわゆる魅力だと考えたときに、やっぱりこういうことができているのが、いいなと思うのですよね。
- 審) やっぱり車を持ってないことが移住のネックになっているのだなあって思います。

また免許持っていない、または免許返納した高齢者が、のんびり過ごしたい街として、行方へ移住するのだとすると、多分そういうところにニーズがあると考えて暮らしていくべきだろうし、もしそれがなかなか簡単ではないとするならば、先ほど言った新しい交通機関のあり方だとか、市民の協力を持ってクリアしていくような話なのかなと思います。例えば、あるところに連絡すれば、時間の空いている人が連れて行ってくれるというスキームだけでも、市が用意して、運転する地域の方に、何らかの謝礼を、例えば地域通貨だとかで配るだとかいうようなやり方で、さっき言ったシェアみたいな話が少しできるのかなと思いました。これは先ほど過疎地だと言ったのですが、ある程度住民がいて初めて成り立つものでもあるのだから、行方のように少し交通の便は悪いけど、住民がそこそこ残っているような町だからこそ成り立つのかなと思いました。

- コ) そろそろ時間も押してきましたが、交通結節点の設定の仕方っていうのは重要なかなと感じていて、そこに行けば何かしらどこかに行けるぞっていうのがわかる拠点の設定が大事かなと思います。

今は路線バスにしてもデマンドバスにしても、そこまで充実しているわけではないから、次の乗り換えのタイミングとか、帰りの便までの時間のつぶし方っていうのが、何かしら必要なのだろうと思います。そうすると、結節点みたいなところで、集まって、時間が崩せる場所みたいなものとして設定できるといいのかなと思います。今の結節点は市役所ですかね？

- 市) 現状は医療機関ですね、やはり利用者が多いというところと、また、駐車場が広く、バスが集まっても、あまり普通の車の邪魔にならないとかですね、そういう観点から行方地域医療センターを結節点として、設置しておりますね。

- コ) それ例えばショッピングセンターとか、あるいはその医療機関にしても何か喫茶店が付随していて、そこでお茶飲みながら時間を持ち、コミュニティにつながるみたいなことがあると、少し何かプラスの要素になるかなという気がしますね。

- 市) そうですね乗り継ぎといっても1分2分というお話でもないので、やはり今おっしゃる通り、30分とかですね、そういう時間を潰していただくのには、そういう施設があると好ましいとは思っております。

今回この場でご意見を賜りましたので、今後の参考にさせていただきながら、皆様に多く乗っていただける公共交通を構築していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

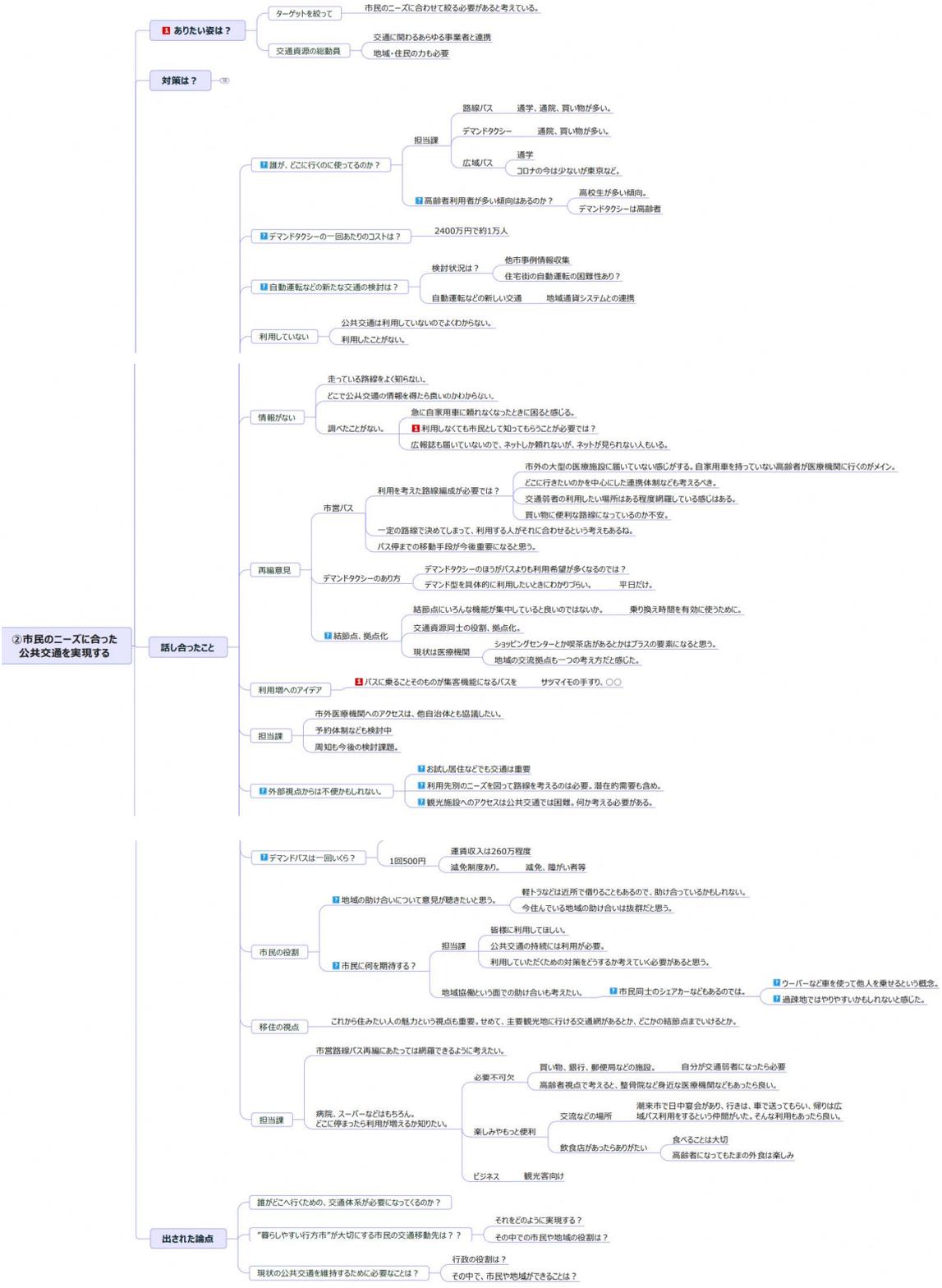
- コ) それでは議論を振り返ります。利便性か必要性かというところがあるのですが、ポイントは、生活の実態を把握し、どこに行きたいのかというところをしっかりと押さえた再編が必要である。

あともう一つは、知らないという現状があり、公共交通のことを利用しなくても、市民として知ってもらうことが必要ではないかというご意見もいただきました。

また再編のところでは、医療介護、銀行、学校通学、必要不可欠なところをカバーするのは当然必要でしょうけれども、交流であったり飲食であったり、楽しむという前提で公共交通の充実というところも、ぜひ行方市のありたい姿として持ってほしいというようなご意見だったかと思います。

それでは以上で、二つ目の公共交通の議論を終わらせていただきます。ありがとうございました。

ホワイトボードの写真 (コーディネーターが議論をまとめた資料含む)



委) : 委員、コ) : コーディネーター、審) : 審議員、市) : 説明担当者